

振り子理論に返って 復活した“ナイスショット”

練習場では「自称天才」

初めてゴルフクラブを手にしたのは、まだ学生だった21歳か22歳の頃のことです。ハンディ3の私の兄からクラブを譲られたのがきっかけでした。兄も医者で、郷里の沖縄で開業していたのですが、私も帰省した折には兄と一緒にコースに行き、一から教えてもらいました。いまに至るまで、私にとって師匠と呼べる唯一の存在が兄なのです。

兄の教えは振り子理論に基づくもの。振り子のリズムを守ってスイングし、トップでは力をゼロにする。当然、グリップは柔らかく握らなければいけません。かつてジャンボ尾崎がグリップは卵をつぶさぬように優しく握ると言っていました。それが同じようなものです。兄に教わった以外は、まったくの自己流。いろんな本を読んでは、よさそうと思ったところだけを取り入れて今日までできています。

学生時代に始めたとはいえ、それから10年間は医局勤めで忙しかったこともあり、ほとんどコースに出ることはありませんでした。素振りをしたり、ごくたまに練習場に行くのが関の山です。

その後いったん荻窪病院に勤務するのですが、この時は、医局ほどは忙しくな

いうとに同様にゴルフ好きが多いこともあり、月に1度はコースに出るようになり、月に1度は練習場にもよく通い、そこでは高い球、低い球、フックにスライスと思うとまじに打ち分けることができたものです。自分では天才じゃないかと思ったこともありましたが、実際にコースに出ると、マットの上で打つのは違い、スコアはせいぜい45〜50程度にすぎませんでした。

再び医局勤務になると、またも年一ゴルフアーに逆戻り。ですから本格的にプレーするようになったのは、1977年に東京で開業してからです。

開業するとどうしても運動不足になりがちです。しかも、医者という仕事はストレスも多い。青空の下、緑の中で一日を過ごすことは、かっこうのストレス解消法です。20年ほど前には川越カントリークラブ（埼玉県）のメンバーとなり、コースに出る回数も増えていきました。いまでは年に60回ほどラウンドします。が、もともとが気持ちよくプレーができればいいという考えですので、あまりスコアのことは気にしません。

3度のホールインワン

ホールインワンは3回達成しています。1度目は1976年に富士ロイヤルカ

日本医用レーザー研究所所長
大城クリニック院長

大城俊夫



トリッククラブ（山梨県）の東アウト8番ホールで、軽い打ち下ろしで、ワン、ツー、スリーでカップに吸い込まれるのをしっかりと見ることもできました。けど親戚と一緒にラウンドしていたこともあり、割と冷静に受け止めたことを覚えています。

あとの2回は、99年、ホームコースの

ゴルフ8つの質問

①年齢、ゴルフ歴	63歳、40年
②ホームコース	川越カントリークラブ（埼玉県） 相模カントリー倶楽部（神奈川県） ゴルフ倶楽部成田ハイツアー（千葉県）
③プレー回数	年間60回
④ベストスコア	77（1995年、東京ゴルフ倶楽部＝埼玉県）
⑤ハンディキャップ	10
⑥使用クラブ	ドライバー＝ナイキ ウッド＝キャロウェイ アイアン＝ホンマ パター＝ホッソスポット
⑦身長、体重	168cm、68kg
⑧最近のハイスコア	40、39（川越カントリークラブ）

振り子理論で
うんやんやんした！



ずつショットがよくなってきたというふうな気がします。一昨年はハワイのワイアラエCCの最難関ホール（6番459ヤード）で2オンにも成功しましたし（1パットのバーティ）、昨年は川越CCの中コース9番でイーグルを達成しています。なぜショットがよくなったかという点、先ほど言ったように、私のスイングの基

川越カントリークラブの東3番ホールと、昨年7月に開かれた相模カンツリー倶楽部（神奈川県）の理事長杯に参加した時に6番ホールで記録しています。

ハンディは現在10。これがいままでのトップハンディです。しかも、ここ1、2年少し

本は振り子理論なのですが、いろんな本を読んだり、あるいは悪妻と一緒にラウンドする時にコーチをしたりしているうち、少しずつ基本が乱れていたようです。そこで、ここ数年、初心に返って振り子に戻したので、それがよかったようです。

あと一歩でシングルのところまできているのですが、そのためには、まずは脚力を鍛えなければならぬと思っています。ですから、時間があれば散歩でもしようと思っています。学会に出席するため海外に行くことも多く、そうすると途切れてしまつて長続きがしなせん。これをまずなんとかしなければいけません。

ところで、ゴルフを楽しみたくても、四十肩で腕が上がらない、あるいは腰痛で腰を回せない、膝が悪くて歩くことも億劫、という人も多いはず。

少々宣伝めきますが、こういう人に打つてつけないのがレーザー治療です。レー

ザーを当てて血行をよくすることで、症状は改善し痛みも和らぎます。たとえば腰痛で腰が回らない人でも、1分ほどレーザーを照射すれば、5割ほど機能は回復します。四十肩の人もし同様。1分ほどの照射で、それまで腕がまったく上がらなかつた人でもスイングできるようなります。

ゴルフ仲間の一人に「にじゅういち」の谷口智治さんがいます。ハワイの名門ワイアラエCCのチャンピオンです。この人は膝に水がたまって困っていたのですが、レーザー治療を繰り返して、昨年完治しました。もちろん痛みもなくなつた。その結果、谷口さんはホームコースの大塚カントリー倶楽部（千葉県）で、クラブチャンピオン、理事長杯、スクラッチ選手権をいずれも獲得、トリプルクラウンに輝きました。

肩痛、腰痛、膝の痛みなどでゴルフを諦めている方は、ぜひ一度相談してみてください。

「地に墜ちた」財界総理・今井敬

月刊**経営塾** 2
新春特別号



中曾根康弘「国を憂う」

特集 勝てば官軍

1500円